

「外川機関士会の活動について」

—「裏方」として 50 年—

銚子市漁業協同組合外川支所 外川機関士会
会長 眞弓 博

1. 地域の概要

私たちの住んでいる銚子市は、千葉県の北東部に位置し、その東側の太平洋沖合には黒潮と親潮が交差する好漁場が形成され、古くから漁業が盛んな地域として全国にその名が知られている（図1）。

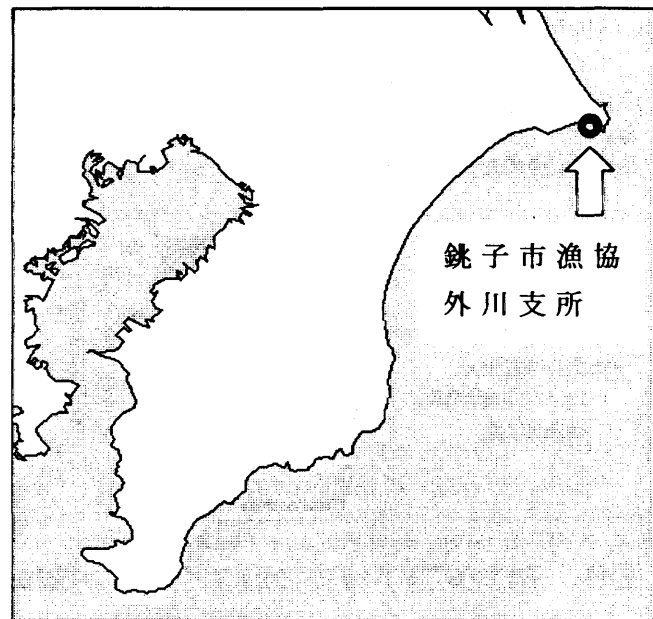


図1. 位置図

2. 漁業の概要

銚子市漁業協同組合は、平成8年9月に銚子市外川漁業協同組合（現外川支所）を含む6漁協が合併して設立され、約360名の組合員は大中型旋網、沖合底曳網およびサンマ棒受網などの沖合漁業から、小型底曳網、一本釣り、延縄、曳縄、船曳網および採貝藻などの沿岸漁業にいたるまで、多種多様な漁業を営んでいる。

私たちの所属する外川支所では、5～10トン未満船によるキンメダイ、ムツ、メヌケなどを対象とした一本釣りおよび延縄漁業と、5トン未満船によるマダイ、ヒラメ、フグ、スズキなどを対象とした灘側の延縄漁業などの沿岸漁業が主に営まれている。

3. グループの組織と運営

私たちの所属する外川機関士会は、昭和30年代に銚子市外川漁協（現銚子市漁協外川支所）に所属する小型漁船の機関担当者が結成した任意組織である。現在では船主が会員となっており、会員数は38名であり、そのほとんどがキンメダイを対象とした釣り漁業を営んでいる。

会員である船主は、原則として乗組員（機関担当）1名を機関士会に所属させ、エンジンの整備など、後述の活動に当たらせている。そのため実働メンバーは青年部を中心とした船主の子弟がほとんどとなっている。実働メンバーは25名であり、その年齢層は28歳～55歳、平均年齢は38歳となっている。

実働メンバーの活動体制は、6名の役員が常時対応し、その他のメンバーは4～5名が1班となり当番制で活動している。また、役員のうち3名は国家資格である海技士（機

関) 資格を保有している。

組織の運営は、月 500 円の会費および必要に応じての協力金により行われているが、活動は実質的にボランティアであり、エンジンに関わる作業を始め、活動に対する報酬は受け取っていない。

4. 実践活動取組課題選定の動機

外川機関士会の設立時の目的は部品対策であり、エンジンの部品が緊急に必要となった場合に即座に対応できるようストックしておくというものであった。設立当時の昭和 30 年代は自動車などの輸送手段が不十分であり、部品の入手に数日を要していた。その間、漁を休まざるを得ない状況となり、漁家経営のうえで大きな問題となっていた。

現在では、設立当初の目的を継承したうえで会員の漁家経営の安定化を図ることを目的としており、そのために次の 2 点を主な目標として活動に取り組んでいる。

- ① エンジンの整備、点検、および修理などによる休漁日を最短にすること。
- ② エンジンの整備等にかかる経費を削減すること。

これらの目標を達成するために、会員からの要請があれば、役員を始めとした実働メンバーは操業準備などの作業中であっても時間を都合して対応し、緊急の修理の場合は、出漁時間に間に合うと判断できれば出漁の直前までに修理を完了するよう取り組んでいる。

こうした取り組み姿勢は、設立当初からのものであり、歴代の先輩から技術とともに引き継いだ「助け合い」という外川機関士会の精神である。

5. 実践活動の状況および成果

主な活動内容は、エンジンに関わること全般であり、オーバーホール、定期的な整備、および緊急時の修理であり、これらの他に技術研修、機関メーカーとの情報交換、工具類の貸し出し、地域活動への参加などに取り組んでいる(表 1)。

表 1. 主な活動内容

◆ エンジンに関わること全般
・ オーバーホール
・ 定期的な整備
・ 緊急時の修理
◆ 技術研修
◆ 機関メーカーとの情報交換
◆ 工具類の貸し出し
◆ 地域活動(きんめだい祭り)への参加

(1) エンジンの整備等(写真 1 および 2)

これまでの年間の活動件数は、エンジンのオーバーホールが 6 ~ 8 件、定期的な整備が 10 数件であり、毎年この範囲の件数となっている。

エンジンをオーバーホールする際にかかる日数は、機関メーカーに依頼した場合は概ね 3 ~ 4 日であるが、機関士会で実施する場合には、時化による休漁日を利用して 1 日で完了するよう取り組んでいる。

また、オーバーホールする際の経費は、機関メーカーに依頼した場合は部品代および出張技術料の合計で 100 ~ 150 万円程度であるが、機関士会では部品代の実費のみの 50 ~ 100 万円程度となり、経費が約 50 万円削減されている(表 2)。



写真1. パーツのクリーニング作業



写真2. 同左

表2. エンジンのオーバーホールについて

- ◆ 件数：6～8件（年間）
- ◆ 1件にかかる日数および経費
 - ・ メーカーに依頼した場合
日数：3～4日
経費：100～150万円（部品代+出張技術料）
 - ・ 外川機関士会で実施した場合
日数：1日
経費：50～100万円（部品代のみ）

（2）技術研修および情報交換

平成9年7月に、大手機関メーカーの協力により、大阪府にあるメーカーの工場に出向いての技術研修を行った。この研修では、当時の最新のエンジンについて分解および組み上げを行い、構造などを詳細に学ぶことができ、また、メーカーの技術者との意見交換を行い、非常に有意義な研修であった。

その後も、機関メーカーとの連絡を密にすることにより、エンジンに関する最新の情報およびトラブルの事例を入手し、技術および知識の向上に努めている。また、得られた情報は会員に伝達し、メーカー側に対してはエンジンに関する現場での状況などの情報を提供している。

さらに、就業間もない若い漁業者が機関士会に所属し、あるいは活動の補助を行うことにより、エンジンに関する技術や知識を身に付けることができ、技術指導または普及の場としての役割を果たしている。

（3）その他

その他の活動として、高価な工具類を機関士会で購入、管理し、会員が個人で作業を行う際の貸し出しを行っている。

また、燃料等について、千葉県漁連および全漁連油質研究所の協力を得て、燃料の品質検査、およびエンジンオイルの品質変化に関する試験を実施し、燃料に関する研修会に参

加するなど燃料等の品質にも気を配った活動に取り組んでいる。エンジンオイルの品質変化に関する試験は、会に所属する4隻を対象とし、3種類のエンジンオイルを使用し、一定期間経過した後に動粘度や残留炭素分、金属元素量などを調査した。その結果、各船あるいはエンジンオイルごと交換適期の見当がついた。また、金属元素量の分析結果から、対象船の1隻のエンジン内部に異常があることが分かり、未然に対応することができた。

さらに、組合から共同で購入しているエンジンオイルについて、会員が使用する量に合わせた分配作業（200ℓ缶から20ℓ缶への移し替え）を行っている（写真3）。機関士会がこの活動を行う以前は、船主が個人で購入していたが、共同で購入することにより低単価で購入でき、また、低単価であるためエンジンオイルの交換頻度が上がり、エンジンをより良好な状態で使用できるといった効果があると考えられる。

こうした活動の他に、銚子市漁協外川支所の漁業者が主体となり取り組んでいる「きんめだい祭り」（銚子産キンメダイのPR活動）では、機関メーカーと協力して機関等の展示を行い、地域活動にも積極的に参加している（写真4）。



写真3. エンジンオイルの分配作業

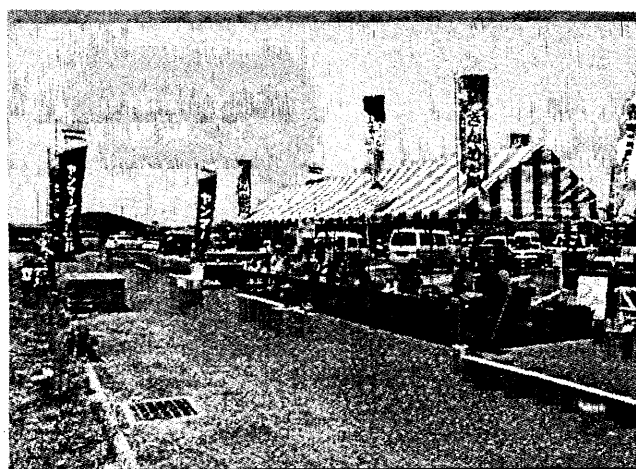


写真4. きんめだい祭りへの参加

6. 波及効果

エンジンのオーバーホールを機関士会で実施することにより経費が約50万円削減されるが、これに加えて、作業日数が短縮されることにより操業日数が確保され、漁業収入の増加が期待でき、船主にとっての経済的効果は非常に大きいと考えられる。

また、漁業者自身がエンジンに関する技術や知識を身に付けることは、洋上でエンジントラブルがあった場合に自らの手で対処することができ、操業の安全を確保する上でも重要なことであると考えられる。

7. 今後の課題や計画と問題点

今後の取り組みについて、強いて課題をあげるとすれば、就業者数の減少が考えられる。会員の多くが営んでいるキンメダイ漁業は、従来は2～3名で操業しているが、近年では1名で操業する船が増加する傾向にあり、翌日の操業準備作業等1名で行わなければならない仕事の量が増加している。そのため、機関士会活動に参加したくても時間に余裕がないメンバーがいるなど、活動への参加人数が以前に比べて減少している。これは、会員数

が 38 名であるのに対し、実働メンバーが 25 名という数字に現れている。

しかし、現在までのところ、人手不足による活動への影響はほとんど見受けられず、また、仮に人手が足りない場合でも、機関士会OBを始めとした地元の漁業者には「仲間のために」という意識が強く、協力が得られるものと考えている。

また、近年ではエンジンの性能が高度化しているのと同時に、より複雑かつ精密な構造となっており、今まで以上に高度な技術が求められている。これまで、機関士会が取り扱ったエンジンが作業の不備により故障したという事例は皆無であるが、エンジンは非常に高価なものであり、また、洋上でのエンジントラブルは漁業者の生死に直結することから、万が一のことがあってはならないということを今まで以上に強く意識し、機関メーカーとの協力体制をより強化することで技術および知識を向上し、対処していきたいと考えている。

私たちの活動は、漁労技術の向上、あるいは資源管理に関することではなく、漁業においては、言わば「裏方」としての活動であるが、このような活動は全国でも他に例がなく、また、約 50 年にわたり活動を継続してきたことは、非常に意義が大きいものであると考えている。

経済的な効果に加え、安全な操業のためにも、これまで以上に技術力を高めるとともに、後継者の育成を図りつつ、機関士会活動を継続し、地元漁業の発展に貢献していきたいと考えている。